

α 遮断薬の分析

Analysis of α blockers

交感神経の興奮は、交感神経から分泌されるノルアドレナリンが、神経末端に存在している受容体に結合することにより引き起こされます。また交感神経の受容体には α 受容体と β 受容体の2種類があり作用が異なります。そのうち、 α 作用は、血管を収縮させ、血圧を上げる原因になります。 α 遮断薬はその α 受容体を遮断することにより、高血圧や心臓病や不整脈等を治療する医薬品です。

今回は、その α 遮断薬のなかで、プラゾシン及びヨヒンビンについてHPLC分析を行いました。これらは塩基性化合物ですが、**L-column2 ODS**により中性条件下で良好なピーク形状が得られます。

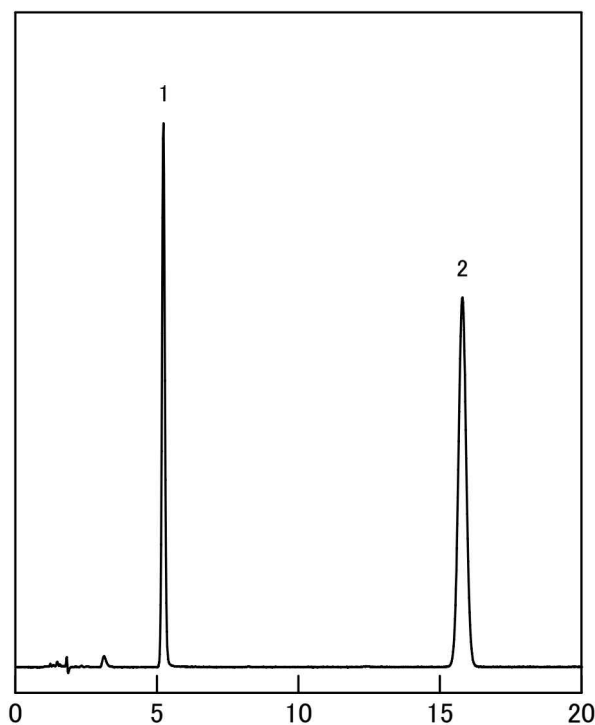
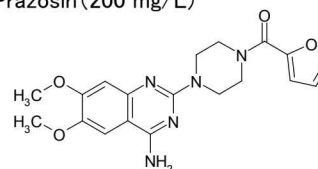
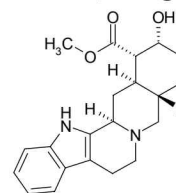


Fig. Chromatogram of α blockers.

1. Prazosin (200 mg/L)



2. Yohimbine (200 mg/L)



(in CH₃CN)

【Analytical conditions】

Column: **L-column2 ODS** (C18, 5 μ m, 12 nm) 4.6 mm I.D. $\times$ 150 mm L.
Mobile phase: CH₃CN/25 mM Phosphate buffer pH 7.0 (30/70)

Flow rate: 1 mL/min
Temperature: 40°C
Detection: UV 220 nm
Injection volume: 1 μ L
System: -